



2021.4.29 thu / holiday
at Tokyo Metropolitan Theatre
Concert Hall

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

Subscription Concert 2021-2022

#153

Norichika Iimori

Conductor

PROGRAM | プログラム

13管楽器のためのセレナード 変ホ長調 作品7 [約10分]

R.シュトラウス
Serenade Es-Dur für 13 Blasinstrumente, Op.7 / Richard Strauss

アルプスの詩 [約22分]

F.チェザリーニ
Poema Alpentre / Franco Cesarini

- I 霧 Nebbia
- II 哀愁(寂寥) Della Malinconia
- III 思いがけない光 Luce Improvisa
- IV 精神的活動(心の動き) Operationes Spirituales
- V 高原の牧場 Alpeggio
- VI 嵐 Tormenta
- VII 神の国 Dello Stato Divino

休憩 [20分] Intermission

交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 [約15分半]

R.シュトラウス／M.ハインズレイ
Till Eulenspiegels lustige Streiche / Richard Strauss / arr. Mark Hindsley

歌劇「ばらの騎士」組曲 [約23分]

R.シュトラウス／酒井 格 編
"Der Rosenkavalier" Suite / Richard Strauss / arr. Itaru Sakai

❗ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。



PROFILE | 指揮者プロフィール

飯森 範親 Norichika Iimori conductor



桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積む。94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは正指揮者として密接な関係を続け、現在は特別客演指揮者。04年シーズンより山形交響楽団の常任指揮者に着任し、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動発展と水準の向上に目覚しい成果を挙げている。07年より音楽監督に就任。08年にはアカデミー賞映画「おくりびと」にも出演するなど、「飯森 & 山響」コンビのエネルギッシュな活動はいま大きな注目を集め、2011年には山形県より齋藤茂吉文化賞を受賞。

海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、ブラハ響、モスクワ放響、北西ドイツ・フィル、デュッセルドルフ響、ドルトムント・フィル、バーゼル響、チェコ国立ブルノ・フィル、チェコ国立モラヴィア・フィル、ホノルル響、アルトゥール・ルービンシュタイン・フィルなど世界的なオーケストラを指揮。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽総監督(GMD)に就任、日本人指揮者とドイツのオーケストラの組み合わせとしては史上初の快挙となる「ベートーヴェン交響曲全曲」のCDをリリースし、06年の日本ツアーを成功に導いた。同オケとは2017年5月にミュンヘンのヘルクレスザールを始めドイツ国内ツアーを指揮。また、同年9月にはポーランドのオルシティン・フィルのシーズン開幕定期公演を指揮し成功を収めた。

国内外の多くのオーケストラとの間に築かれた類稀な信頼関係、信頼を裏付ける着実な活動の輪の広がりが高く評価され、05年「渡邊暁雄音楽基金 音楽賞」を受賞。さらに、近現代作品や日本人作品の初演・再演に対する業績により、06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度 中島健蔵音楽賞を相次いで受賞した。2012年東京交響楽団との《レスピーギ：交響詩「ローマの松」「ローマの噴水」「ローマの祭り」》はレコード芸術誌特選盤、2015年日本センチュリー交響楽団と収録を行った「マーラー：大地の歌」「ハイドン交響曲集vol.1」はレコード芸術誌特選盤に選出。2016年には世界的にも数少ない日本初となる「モーツァルト交響曲全集」を山形交響楽団と収録し第55回レコード・アカデミー賞(特別部門企画・制作)を受賞。また、日本初演となった東京交響楽団定期公演との「ボポー作曲交響曲第1番(ライブレコーディング)」は、オクタヴィアレコードよりCD発売され、レコード芸術誌、朝日新聞 for your Collection両特選盤に選出された。

東京交響楽団特別客演指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者。2007年より山形交響楽団音楽監督、19年シーズンより同楽団芸術総監督に就任。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2021年4月より東京ニューシティ管弦楽団ミュージック・アドヴァイザー(次期音楽監督)に就任。

2020年10月、新国立劇場のシーズンオープニング公演であるブリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を収めた。

オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>

PROGRAM NOTES | 曲目解説 一 富樫鉄火 (音楽ライター)

吹奏楽で聴くりヒャルト・シュトラウスの魅力

リヒャルト・シュトラウス (1864～1949／ドイツ) は、父がミュンヘン宮廷楽団のホルン奏者で音楽教師、母が裕福なビール醸造業者の娘という、ドイツ中産階級の良家の子弟として育った。父の影響で子どものころから、ピアノ、ヴァイオリン、作曲などを学んでいたが、音楽学校には一切通っていない。作曲は十代前半のころから始めている。

リヒャルトの少年時代、ドイツ音楽界はワーグナー全盛期だった。だが保守的な父はワーグナーを嫌い、息子には徹底的にモーツァルトなどの古典派を教えた。その影響か、後年、リヒャルトは、モーツァルト時代への憧憬と、ワーグナーを凌ぐ壮大な管弦楽とが一体となったような音楽を書くようになる。後年は指揮者としても大活躍した。

第2次世界大戦中は、ナチス・ドイツ政権下で音楽院総裁もつとめた。そのため、親ナチスと見られた時期もあったが、ユダヤ人の友人を守ったこともあり、戦後の非ナチ化裁判では無罪となっている。

85年の生涯のうち、30歳代までは交響詩を中心に、40歳代以降はオペラを中心に書いた。大量の歌曲で、多くのドイツの詩人の存在を広めた功績も大きい。複数の旋律が絡み合いながら、濃厚かつ官能的に奏でられる音楽が特徴で、後期ロマン派を代表する大作曲家とされている。

大量の管楽器を使用する楽曲が多く、吹奏楽でもよく演奏されている。東京佼成ウインドオーケストラ (TKWO) にとっても重要な作曲家で、過去、本日の楽曲のほかに、交響詩《ドン・ファン》、《アルプス交響曲》、楽劇《サロメ》～《7つのヴェールの踊り》、《メタモルフォーゼン》などが演奏されている。また、しばしば歌曲を声楽なしの管楽アンサンブルで演奏しているがこれも大好評で、吹奏楽でリヒャルトの魅力を広めている。

本日は、オマーージュ作品も含めて、リヒャルト・シュトラウスの華やかな響きを、たっぷりとお楽しみいただきたい。

R.シュトラウス

13管楽器のためのセレナード 変ホ長調 作品7

1882年、リヒャルト18歳の年に、ドレスデン宮廷楽団によって初演された出世作。ミュンヘン大学哲学科に入学した年の曲である。

この作品は、当時の大指揮者、ハンス・フォン・ビューローに高く評価された。ビューローは本曲をかなり気に入ったようで、ドイツ各地で演奏してくれた。おかげで、シュトラウスは一挙にドイツ音楽界で知られる存在となった。

曲名からわかるように、明らかにモーツァルトの《グラン・パルティータ》K.361 (13管楽器のためのセレ

ナード)を意識して書かれている。オリジナルは、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、コントラバスーン1 (またはチューバかコントラバス) で構成されている。後年、シュトラウス自身によるピアノ独奏版や4手ピアノ版も出版された。

旧来の「セレナード」は複数楽章形式だが、本曲は、ゆったりしたアンダンテの単一楽章。いかにも若者らしい清潔な響きのなかにも、すでに、後年のシュトラウスを思わせる濃厚な香りの片鱗が顔を出す。

初演メンバーの中に、名ホルン奏者のオスカー・フランツ (1843～1889) がおり、本曲がきっかけで信頼を得たリヒャルトは、後年、彼のためにホルン協奏曲第1番を書いている (フランツは作曲家でもあり、ホルンの《無言歌》は、いまでも音大やコンテストで課題曲となっている)。

なおリヒャルトは、のちに、同じ楽器編成の組曲も書いているが、これもビューローの進言によるものであった。

F.チェザリーニ

アルプスの詩

スケール豊かな曲想で知られるフランコ・チェザリーニが、リヒャルト・シュトラウスの《アルプス交響曲》へのオマーージュとして、リヒャルトの没後50年を機に作曲。1999年に発表された。

全体は〈霧〉〈哀愁 (寂寥)〉〈思いがけない光〉〈精神的活動 (心の動き)〉〈高原の牧場〉〈嵐〉〈神の国〉の7部構成。カウベルやウインドマシーンが登場するところなども《アルプス交響曲》を思わせるが、リヒャルト曲のように、アルプス登山を題材にしているわけではなく、大自然に対する人間の想いや思索を描いている。現に、作曲家自身、トーマス・マンの小説『魔の山』に触発された旨を述べている。アルプス山中の結核療養所で7年間を過ごす青年が、様々な人々と交流し、思索を深めながら成長していく20世紀ドイツ文学の傑作である。そんな文学作品を題材に、《アルプス交響曲》のスタイルを借りて、大自然と人間との関係を考える—そんな音楽である。

作曲家フランコ・チェザリーニ (1961～) は、スイス人だが、南部ティチーノ州のベッリンツォーナで生まれた。ここを地図で見ると、イタリアに食い込んでいる。このあたりは「スイス・イタリア語圏」と呼ばれ、スイスでありながらイタリア語を使用する、文化の混在エリアである。クラシック音楽のファンだったら「スイス・イタリア語放送管弦楽団」 (別称「ルガーノ放送管弦楽団」) の本拠地としておなじみだろう。世界中から著名な指揮者や共演者を招いており、かつてリヒャルト・シュトラウスも指揮している。チェザリーニも、スイスとイタリア双方の音楽院で学んだ。つまりスイスの大自然とイタリアの古典文化に囲まれて育ったわけで、《アルプスの詩》は、そんな彼の特質が強く出た作品である。

日本ではほかに、《ビザンチンのモザイク画》や、《ブルー・ホライゾン》 (青い水平線) などに人気がある。交響曲もすでに第2番《江戸の風景》まで発表しており、第1番《アークエンジェルズ》は、2022年2月のTKWO第157回定期演奏会で、飯森範親の指揮によって演奏される予定である。

R.シュトラウス／M.ハインズレイ 編

交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

先述のように、リヒャルト・シュトラウスは、30歳代までは「交響詩作曲家」として知られていた。その第一弾が《ドン・ファン》で、以後、《マクベス》《死と浄化》とつづき、1895年、31歳の時に発表された第4弾が本曲である。曲名にある「ティル・オイレンシュピーゲル」とは、14世紀ごろにドイツに実在したといわれている道化の奇

人。小うるさい親方をだまして困らせたり、下世話な糞尿によるいたずらで知られ、絵本や伝承本となり、体制や権威に対抗する象徴として大衆に愛される存在となった。最期は逮捕され、処刑されたとも伝えられている(伝承本では脱走する)。

シュトラウスは、当初、この伝承をオペラ化しようと考えていた。しかし、すでに他人がオペラ化していたほか、別の題材に興味に移ったせいもあって、最終的には管弦楽曲とすることで落ち着いた。ちなみにスコアには「交響詩」ではなく、「大管弦楽のための、ロンド形式による、むかしのいたずら者の物語」と冠せられている。

原曲は4管編成で、オブションまで含めると、ホルンは8本、トランペットは6本、また弦楽5部は計64人が指定されている。

ケルンにおける初演は大成功だった。ストーリー性とリズム感のある曲想だったせいか、すぐに、本曲をバレエ化しようとするひとが続出した。シュトラウス自身もそれを認め、ニジンスキ、ディアギレフ、ムラカール夫妻、バランシンといった錚々たる振付師や興行師が世界中で本曲を上演し、一時はバレエ曲としての人気のほうが高いくらいだった。

曲は、短い前奏が「むかしむかし、あるところに……」と語りかけたあと、ホルンによる有名な“ティルのテーマ”がつづく。まさに自家薬籠中のメロディである。

その後、クラリネットによるティルの微笑みを経て、いたずらで大騒ぎに～逮捕の予感～女性に相手にされない怒り～豪快ないたずらの連続～逮捕～裁判～死の恐怖～絞首台での処刑……と息を継ぐ間もなく、絵巻物のように音楽が展開する。

ラストでは、耳慣れたテーマが再登場し、ティルは死すとも、その逆逆精神は永遠につづく……と予感させて見事な幕切れとなる。全編、シュトラウスならではのオーケストレーションが炸裂する名曲である。

本日は、主にイリノイ大学で長く吹奏楽の指導をつづけた指揮者、マーク・ハインズレイ教授(1905～1999)による編曲譜で演奏される。多くのクラシック名曲を編曲し、吹奏楽曲のレパートリーを拡大させた功労者である。

R.シュトラウス／酒井 格 編 歌劇「ばらの騎士」組曲

◎オペラ原曲について

リヒャルト・シュトラウスがオペラに本腰を入れ始めるのは40歳を過ぎてからで、最初の成功作が、第3作《サロメ》(1905年初演、41歳)である。本作《ばらの騎士》は、第5作目にあたり、1911年にドレスデン宮廷歌劇場で初演された(作曲時、46歳)。

台本は、このあと名コンビとなる大作家、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール(1874～1929)による。すでに彼とは第4作《エレクトラ》で組んでいたが、これは既出の戯曲をほぼそのまま音楽化したもので、オリジナル共作としては、《ばらの騎士》が最初だった。

内容はモーツァルト・オペラへのオマージュ。女帝マリア・テレジア時代(1700年代)のウイーンを舞台に、元帥夫人のもとから、愛人の青年貴族が去っていくまでが、さまざまな人間関係をからめながらコメディ風に描かれる。元帥夫人たち大人にとっては“人生の黄昏”、青年貴族たち若者にとっては“大人への入口”となる過程が、美しい音楽で、じっくりと奏でられる。

題名の“ばらの騎士”とは、貴族が婚約を申し込む際に立てる使者のことで、その際に“銀のばら”の造花をおくことから、この名称となった……のだが、実はこれは台本作家ホーフマンスタールの創作。しかし彼はマリア・テレジア女帝の侍従長の日記を資料としており、劇中の貴族たちの生活ぶりは、かなり正確に再現

されているといわれている。

全3幕で正味3時間半の大作。主要歌手は4人だが、高度な歌唱力と演技力を要求される。アリアは皆無で、ほとんどが複数歌手による重唱。特にクライマックスの三重唱は有名で、通称“ばらの騎士の三重唱”と呼ばれる。管弦楽もオペラとしては大規模で、弦楽5部はスコア指定では62名が必要。そのほか、舞台上にかなり大きな編成のバンドも要求されている。

リヒャルトは、後年、「ウイーン国立歌劇場」の音楽監督もつとめた。そのウイーンが舞台だけあり、本作は、同歌劇場にとって特別の演目である。第2次世界大戦時に連合軍の空襲で破壊された同歌劇場が、1955年に再建された際、柿落として上演された演目のひとつが本作だった(ハンス・クナッパースブッシュ指揮)。

日本でもしばしば上演されているが、特に1994年の同歌劇場来日公演は、いまでも語り草。名指揮者カルロス・クライバーの生涯最後のオペラ公演だったこともあり、半ば伝説となりつつある、前代未聞の名演であった。

◎組曲／編曲について

初演が空前の大成功で、すぐに人気作となったため、管弦楽用の曲もいくつか生まれた。全編中からワルツの部分抜き出した《ばらの騎士ワルツ》(2編あり)のほか、いくつかの管弦楽組曲(サイレント映画用含む)が出た。

本日演奏される組曲は、それらのなかで、もっとも有名なもの。戦争真っ盛りの1944年10月5日に、アルトゥール・ロジンスキ指揮のニューヨーク・フィルハーモニックが初演したのだが、出版譜にも編曲者名がなく、通常は「リヒャルト・シュトラウス作曲」とだけ表記される。

曲は、おおむねオペラ原曲の流れに沿って展開する(「組曲」となっているが、切れ目なしでつづけて演奏される)。

冒頭は有名な、ホルンの“雄叫び”で幕が開く。これは元帥夫人と、愛人の青年貴族オクタヴィアンとのベッド・シーンで、考えてみれば極めてきわどい音楽である。

その後、第2幕でオクタヴィアンが“ばらの騎士”となり、清純な娘ゾフィーに銀のばら(オックス男爵からのプロポーズ)を届ける場面となる。単なる使者だったはずのオクタヴィアンは、ここでゾフィーに一目ぼれしてしまう。この瞬間から、登場人物たちの運命が、予想外の方に転がり始めるのである。

このあと、にぎやかなドタバタ・コメディの場や、ワルツなどが華やかにつづき、いよいよクライマックス、オペラ史上に残る名場面の三重唱となる。元帥夫人は愛人を失うことの寂しさと自らの青春の終わりを、オクタヴィアンはゾフィーへの想いを、ゾフィーはオクタヴィアンの愛を受け入れることの不安を、各々が歌う。まったくくちがった感情と言葉が同時に奏でられ、それが破綻していない。歌詩なしの吹奏楽版でも三者三様の内面が伝わってくる、奇跡のような音楽である(シュトラウスの遺言で、葬儀ではこの三重唱が演奏された)。

やがて元帥夫人は、若い2人の幸せを祈りつつ、そっと部屋を出る……オペラ原曲はこれで終わる。ところがこの組曲では、このあと、ゾフィーに求婚していたオックス男爵の、第3幕前半でのドタバタ音楽やワルツが再現され、さらに、原曲にはないコーダで終わる。

たしかに見事な終曲部分で、音楽的には面白いのだが、なぜ、こだけ原曲の流れを無視したのか。もしリヒャルト自身の編曲だったら、このような構成にしたらどうか？ また、どうもリヒャルトの筆とは思えない終結部のコーダは誰が書いたのか？ これらは長年、謎とされていたが、現在では、初演を指揮したアルトゥール・ロジンスキ(1892～1958)の編曲ということになっているようだ。ニューヨーク・フィルの音楽監督として、リストラや苛烈な練習で“独裁者”と呼ばれた超個性派指揮者である。

本日は、《たなばた》《森の贈り物》などで知られる人気作曲家、酒井格(1970～)による編曲譜で演奏される。大阪市音楽団(現・Osaka Shion Wind Orchestra)の委嘱で編曲され、2006年11月に秋山和慶の指揮で初演された。リヒャルト特有の官能的な響きを再現した名スコアである。

〈敬称略〉

PROFILE | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者……………フレデリック・フェネル
正指揮者……………大井剛史
特別客演指揮者………トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者……………飯森範親
ポップス・ディレクター……………藤野浩一

指揮……………飯森範親
演奏……………東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo……………丸田悠太(Flute)	Trumpets……………奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也 [*] 、河原史弥、 池田英三子、犬飼伸紀、川村大
Flutes……………前田綾子、白石法久、瀧本実里、 西岡あかね	Horns……………上原宏、堀風翔 [*] 、小助川大河、 葛西亮、田中みどり
Oboes……………宮村和宏 [*] 、上原朋子	Tenor Trombones……………今村岳志 [*] 、石村源海、越智大輔
English Horn……………桜田昌子	Bass Trombone……………佐藤敬一郎
Bassoons……………福井弘康、宮崎寿理	Euphoniums……………岩黒綾乃、齋藤充
ContraBassoon……………君塚広明	Tubas……………近藤陽一、田村優弥
Clarinet in E b……………松生知子	Contrabass……………前田芳彰
Clarinet in B b……………小倉清澄、大浦綾子、林裕子 [*] 、 亀居優斗、木内倫子、佐藤拓馬、 徳武敦、野田祐太郎、福井萌	Timpani……………坂本雄希 [*]
Alto Clarinet……………瀧本千晶(Bass Clarinet)	Percussion……………秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、 久米彩音、市東章代、山口大輔
Bass Clarinet……………有馬理絵 [*]	Harps……………操美穂子、宮原真弓
ContraBass Clarinet……………原浩介(Contra Alto Clarinet)	Celesta……………小笠寺美樹
Alto Saxophones……………田中靖人(Soprano Saxophone) [*] 、 林田祐和、神保佳祐	
Tenor Saxophone……………松井宏幸	
Baritone Saxophone……………栃尾克樹	

(※＝演奏委員)

名誉楽団長……………庭野光祥	マネージャー……………遠藤敏、井小萩浩之
楽団長……………林總太郎	ステージマネージャー……………今井慎吾、勝川本久
佼成文化協会長……………菅野泰正	ライブラリアン……………羽田紀子
コンサートマスター……………田中靖人	制作……………久保慶恵
副コンサートマスター……………宮村和宏	パーソナルマネージャー……………富田真里那
インスペクター……………堀風翔	総務……………牧野正純、佐原由起、勝川本久
企画委員……………原浩介	広報……………遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
	チケットサービス……………荻沼美帆
	庶務……………出塚和良、小野寺龍一、石川清
	経理……………水本孝枝

Gold Members

サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2021年3月31日現在)

アシストジャパン	永瀬 敬至	古沢 秀明
佐々木 潤	平山 博通	横田 陽一
中江 亮	ピロッタ真緒	

PR Supporters

PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧

敬称略で掲載させていただいております。(2021年3月31日現在)

アル音楽教室	(株)池袋音楽学院
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 広島本社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
(株)管楽器専門店タク	大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	ドレミファクトリー
(株)セントラル楽器	フルート専門店テオバルト
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	アトリエ・エム株式会社
管楽器雑貨専門店pitch	イシバシ楽器 横浜店
ザ クラリネット ショップ	フォルテ・オクターヴハウス
新潮講座・神楽坂教室	葡萄房 by THE CAMEL
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	やしろ食堂
(株)永江楽器水戸	吹奏楽酒場「宝島。」
野中貿易(株)	金寿司
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	フローリスト花六
宮地楽器 小金井店 ANNEX	中華 大橋

個人のお客様

渡邊 直子	樫野 哲也
-------	-------

PR
サポーター
とは?

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか?

ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

Original goods

新商品
登場!

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら



右肩部分

新オリジナルTシャツ

各1着 2,500円(税込)

会場限定/各1着 2,300円(税込)



オリジナルブラボータオル

1枚 1,700円(税込)

会場限定/1枚 1,500円(税込)

◎サイズ:34×86cm ◎素材:綿100% 今治産
国内で生産された今治産タオルに
「BRAVO」がプリントされています。

※サポーターズクラブ会員の方はWEBからでも、会場限定価格でご購入いただけます。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!

TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか?

サポーターズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を

より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください!



詳細はこちら

好評
販売中!東京佼成
ウインドオーケストラ
60年史

1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。
定額演奏会、レコーディング、楽譜作品を含む全活動記録、そしてドキュメントまで

完全永久
保存版!

定価: 3,080円 (税込/本体2,800円+税)

四六判(本文132mm×191mm)/丸背厚表紙/384頁
ISBN 978-4-10-910188-2

世界中の音楽愛好家へ捧ぐ完全永久保存版!

東京佼成ウインドオーケストラ 60年史

世界に誇るスーパーアンサンブル集団のすべてが凝縮
いま初めて紐解かれる、秘められた驚愕のエピソード
1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。



全国有名書店、
および東京佼成ウインドオーケストラ事務局で
お求めいただけます。

◀詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。

結成3年目、第1回定期演奏会の模様。
1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂
にて。指揮は、創設者のひとり、河野貴
造・副楽長。この日は、ロッシニ《セビ
リヤの理髪師》序曲、チャイコフスキー《ス
ラブ行進曲》などが演奏された。

東京佼成ウインドオーケストラ

TOKYO
KOSEI WIND
ORCHESTRA

第154回 定期演奏会 #154 Subscription Concert

フローレンティナー・マーチ J.フチーク/M.L.レイク 編/F.フェネル 校訂

吹奏楽のための抒情的「祭」 伊藤康英

「指輪物語」よりⅠ・Ⅲ J.デ・メイ

ブルー・シェイズ F.ティケリ

古いアメリカ舞曲による組曲 R.R.ベネット

ウェディング・ダンス J.プレス/H.ジョンストン 編/F.フェネル 校訂

美しきドゥーン川の堤よ土手よ P.グレインジャー

行進曲「ローリング・サンダー」 H.フィルモア/F.フェネル 校訂

行進曲「ヒズ・オナー」 H.フィルモア/F.フェネル 校訂

指揮

原田 慶太楼

Keitaro Harada, Conductor

©Claudia Hershner

6 | 5
2021
SAT開演: 14:00
(開場: 13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL: 03-5391-2111(代表)

チケット料金
(全席指定 税込)

S席¥6,000 A席¥4,500 B席¥3,500 C席¥1,500

各種割引 S60割引 ¥3,600 U25割引 ¥2,000

(TKWOチケットサービスのみでの取扱) 団体・車いす・身体障害者手帳をお持ちの方には割引がございます。※割引の併用はできません。

チケットの
お申し込み

▶東京佼成ウインドオーケストラチケットサービス

TEL: 0120-692-556 (9:30-16:30/土・日・祝を除く)
FAX: 03-5341-1255 メール: ticket@tkwo.jp

▶WEBチケットサービス

※定期メンテナンス
毎日3:00-4:00

▶プレイガイド

●チケットぴあ【Pコード: 192-883】 ●ローソンチケット【Lコード: 33448】
●e+ (イープラス) ●東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296「ゆったり席」
新設!

2021-2022シーズンは、一部、
左右空席を設けた「ゆったり席」を
新たにご用意しました!

1回券【通常料金+500円】

にて販売いたします。

お取り扱い:
TKWOチケットサービス

※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者・曲目・時間等は変更になる場合がございます。※お申し込み後の変更・キャンセルはお受けできません。※公演中止の場合を除き、払い戻しはいたしません。※新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに基づき、配席変更となる場合がございます。

主催: 佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

後援: 一般社団法人全日本吹奏楽連盟、東京都吹奏楽連盟、公益財団法人日本吹奏楽指導者協会、公益財団法人日本音楽教育文化振興会、
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会、一般社団法人日本吹奏楽普及協会、株式会社日本コムピア、株式会社テレビマンユニオン、
公益財団法人としま未来文化財団

東京佼成ウインドオーケストラ事務局

TEL 03-5341-1155

https://www.tkwo.jp/

2021-2022

定期演奏会スケジュール

第154～157回 定期演奏会

- ▶ 場所：東京芸術劇場コンサートホール
- ▶ 開演：14:00(開場:13:00)

第154回 定期演奏会

2021年 6月5日(土)
指揮：原田慶太楼



©Claudia Herscher

- フローレンティナー・マーチ
／J.フチーク／M.L.レイク 編／F.フェネル 校訂
- 吹奏楽のための抒情的「祭」／伊藤康英
- 「指輪物語」よりI・III／J.デ・メイ
- ブルーシェイズ／F.ティケリ
- 古いアメリカ舞曲による組曲／R.R.ベネット
- ウェディング・ダンス
／J. プレス／H. ジョンストン 編／F. フェネル 校訂
- 美しきドゥーン川の堤よ土手よ／P.グレインジャー
- 行進曲「ローリング・サンダー」
／H.フィルモア／F.フェネル 校訂
- 行進曲「ヒズ・オナー」
／H. フィルモア／F. フェネル 校訂

会員先行：2021年4月7日(水)
一般発売：2021年4月14日(水)

第155回 定期演奏会

2021年 9月23日(木・祝)
指揮：大井剛史(正指揮者)



©Atsushi Yokota

- 主題と変奏／A.シェーンベルク
- 交響曲 第3番／V.ジャンニーニ
- パッサカリヤ／A.リード
- 交響曲 第3番／A.リード

会員先行：2021年7月21日(水)
一般発売：2021年7月28日(水)

第156回 定期演奏会

2021年 11月23日(火・祝)
指揮・クラリネット：ポール・メイエ



©Shin Yamagishi

- ローマの謝肉祭／H.ベルリオーズ／仲田 守 編
- クラリネットのための軍隊協奏曲／C.ベールマン／大橋晃一 編
- クラリネットのための第1狂詩曲／C.ドビュシー／稲垣卓三 編
- 交響曲 第3番 オルガン付き／C.サン・サーンス／大橋晃一 編

会員先行：2021年9月8日(水)
一般発売：2021年9月15日(水)

第6回 大阪定期演奏会

2021年 11月24日(水)
指揮・クラリネット：ポール・メイエ

- 場所：ザ・シンフォニーホール
- 開演：19:00(開場：18:00)
- 曲目・出演者は 第156回と共通
- 会員先行：2021年5月20日(水)
- 一般発売：2021年5月27日(水)
- ※会員先行はザ・シンフォニーホール会員、TKWO定期会員・サポーターズクラブの方が対象。

第157回 定期演奏会

2022年 2月26日(土)
指揮：飯森範親(首席客演指揮者)



©山岸祥

- 献呈序曲／C.ウィリアムズ
- アルメニアン・ダンス Part I, II／A.リード
- TKWO委嘱作品(世界初演)／長生 淳
- 交響曲 第1番「アークエンジェルズ」／F.チェザリーニ

会員先行：2021年12月15日(水)
一般発売：2021年12月22日(水)

主催

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン

公益財団法人としま未来文化財団

<https://www.tkwo.jp/>

